

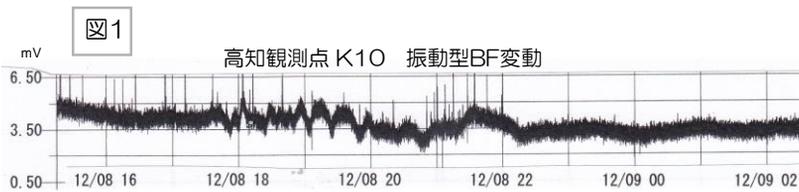
八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線線形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778 長期継続変動 続報 12/17 PBF特異は直前変動ではなかった模様
12/8 高知観測点 K10 振動型BFが極大の可能性
12/28午後±2 に最後の継続中変動が終息した場合=1/4±2 発生の可能性



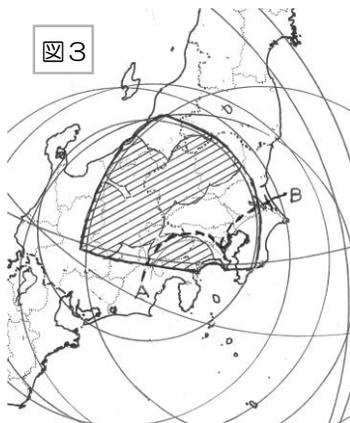
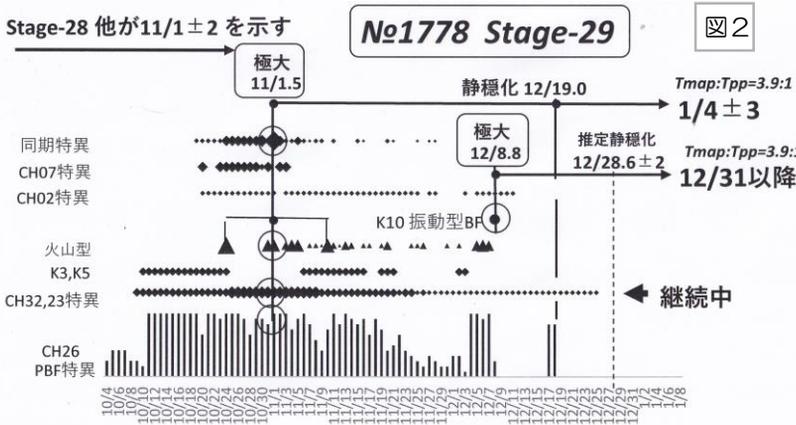
◆前情報までは12/6中心の火山型変動と長時間出現したPBF特異が二つ目の極大の可能性と考え、12/17に出現したPBF特異を直前変動の可能性とも考えました。

◆12/17のPBF特異は12/18にも出現しました。直前変動にしては火山型変動が観測されませんでした。また11/1.5極大に対して12/12.8が静穏化の場合は12/27±3発生が計算されますが、最後のCH32・23特異が12/22±2に静穏化せず、本日現在も継続出現しています。

◆このことから、前述認識は明らかに誤りであることとなります。図1のとおり12/8夕刻～夜にかけ高知観測点K10に振動型BF変動が観測されました。影響局は氷上100wまたは宇陀100wでNo1778推定領域を含みます。No1778関連で出現した変動であることは認識していましたが、これが二つ目の極大の可能性がります。

◆11/1.5極大に対する静穏化は最後に出現したCH26-PBF特異とし、12/19.0静穏化で計算しますと、2025年1月4日±3 発生の可能性が計算されます。この認識が正しく、現在のCH32・23特異が12/8.8極大のK10振動型BFに対して継続している場合12/28.6±2に静穏化する可能性が計算

されます。これが観測されれば、1/4±2発生の可能性となります。静穏化しない場合は再考します。続報予定。



●推定領域：図3の太線領域内＝大枠推定領域
図3斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合＝M7.4±0.3 + M7.3±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkm
が合計で約150km程度となる様な複合地震活動の可能性
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい（今後噴火変動が観測された場合は続報予定）

●推定時期：CH32・23特異が12/28.6±2 に静穏化した場合＝2025年1月4日±2日
静穏化を確認して修正

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震

○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3（午前09時±2の可能性若干高い）

A～B弧線以南の可能性は低い